

大阪府におけるアライグマの分布拡大と農業被害実態

環境研究部 自然環境グループ

■背景と目的

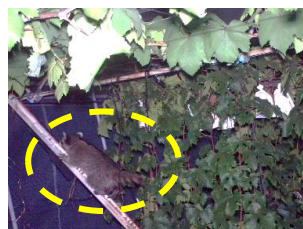
当所では、シカ、イノシシ、アライグマなどの野生鳥獣の保護管理や被害防除のために、農作物への被害強度や鳥獣の出没頻度、防護柵の設置状況等について情報収集し、被害の現状や経年変化を分析しています。

アライグマは、農作物被害を引き起こす特定外来生物で、全国44都道府県で生息が確認されています。大阪府でも捕獲頭数は年間2,000頭を超えており、現在最も大きな農業被害を及ぼしている野生鳥獣となっています。

主な被害作物はトウモロコシ、メロン、スイカ、イチゴなどですが、木登りや泳ぎも得意で、樹上のブドウや庭の金魚、ペットの餌まで被害を受けています。



アライグマの食害を受けたブドウ



センサーカメラで捉えたブドウを加害するアライグマ
*巧みに手足を使って木や支柱を登ります

■調査の方法

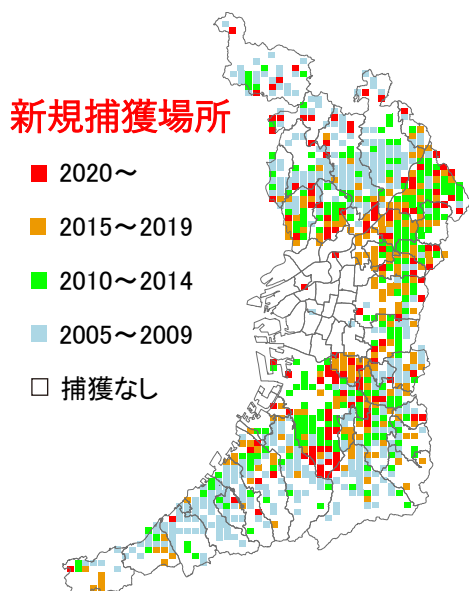
- ・農業被害アンケート：大阪府各地の農業集落代表者を対象としたアンケート結果を解析（右写真）
- ・捕獲個体情報：大阪府や市町村の捕獲データを解析

農業被害アンケート

■結果・考察

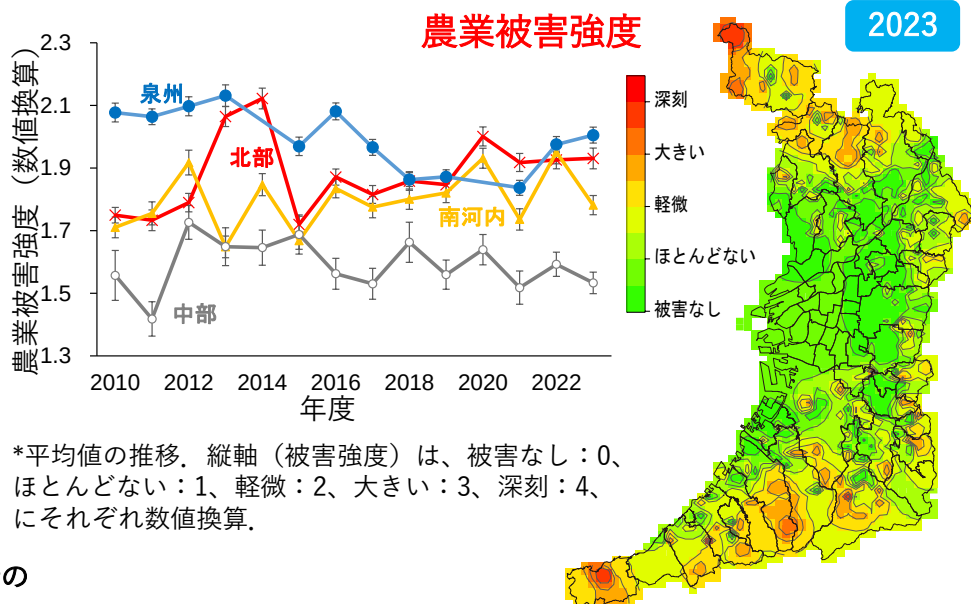
(1) 捕獲場所から見た府内の分布拡大

当初は北部地域や南河内～泉州地域が分布の中心でしたが、北河内地域、大阪市周辺の都市域へと徐々に分布が拡大しています。2022年度は捕獲地点数が最大となるなど、依然として分布拡大が継続しています。



(2) 農業被害アンケートから見た被害状況

分布拡大にともなって農業被害の発生地域も拡大してきました。近年はどの地域でも被害が慢性化している状況です。被害強度が増加継続にある北部地域のほか、これまで被害の少なかった都市部でも、対策を強化していくことが必要だと考えられます。



*平均値の推移。縦軸（被害強度）は、被害なし：0、ほとんどない：1、軽微：2、大きい：3、深刻：4、にそれぞれ数値換算。

図1 1 kmメッシュ単位での新規捕獲場所の変化（2022年度までのデータを集計）

図2 農業被害強度の地域毎の推移および2023年度の被害強度の空間補間図

■今後の方向性

継続的な調査から生息状況や被害状況の経年変化を明らかにするとともに、自動撮影カメラでのモニタリングを強化することで生息密度の変化を把握し、生息密度と被害強度の関係解析を進めていきます。

掲載論文：石塚・幸田ら（2021）地域自然史と保全,43,45-52
幸田（2016）地域自然史と保全,38,29-40